

# 感染・脱臼予防が重要

人工関節は、加齢や病気で傷んだ関節の代わりになる、金属やポリエチレン製の人工物だ。紙面では、人工関節の中でも代表的な「人工膝関節」と「人工股関節」に置き換える手術数(関節数)を聞き、その合計数も示した。

人工関節手術では、感染や脱臼などの合併症が問題となる。滅菌された手術室や、正確かつ安全に人工関節を入れるための医療システムを使うなどして予防に

努めているが、医療機関で合併症の発生率が異なる。手術後の処置が必要となった合併症の割合を示した。

人工膝関節が必要となる代表的な病気は、「変形性膝関節症」だ。加齢で軟骨がすり減り、膝関節が変形して痛みが生じる。まずは運動や減量、ヒアルロン酸注入などの治療を行い、骨の一部を切って変形を矯正することもある。それでも改善されない場合、傷んだ関節の表面を切除して、人

工関節に置き換える。

一方、人工股関節手術を行う主な病気である「変形性股関節症」は、生まれつき関節がずれていたりすることなどに加齢が重なって痛みが表れる。

人工関節を入れたからと言って、若い時の健康な足に戻るわけではなく、回復度合いは手術前の足の状態に左右される。特に膝関節では手術直後から行うリハビリが回復を早くさせるため、リハビリの指導を十分

に受けられるかも、病院選びのポイントとなる。

## 病院の実力「人工関節」

医療機関別2013年治療実績 (読売新聞調べ)

都道府県	医療機関名	主な人工関節の総手術数(件)	人工膝関節(件)	人工股関節(件)	処置が必要な合併症の割合(%)
神戸海星		359	217	142	0.6
兵庫県					
大阪府					

「国・」は国立病院機構。「地・」は地域医療機能推進機構。「一」は無回答または不明。調査は、厚生労働省の地方厚生局に2012年の人工関節手術数を届け出た医療機関が対象。

\*全国の調査結果は「暮らし健康面」に掲載しています。